



**JAPANESE A1 – STANDARD LEVEL – PAPER 1**  
**JAPONAIS A1 – NIVEAU MOYEN – ÉPREUVE 1**  
**JAPONÉS A1 – NIVEL MEDIO – PRUEBA 1**

Monday 8 May 2000 (morning)

Lundi 8 mai 2000 (matin)

Lunes 8 de mayo del 2000 (mañana)

3 hours / 3 heures / 3 horas

---

**INSTRUCTIONS TO CANDIDATES**

- Do not open this examination paper until instructed to do so.
- Section A: Write a commentary on one passage. Include in your commentary answers to all the questions set.
- Section B: Answer one essay question. Refer mainly to works studied in Part 3 (Groups of Works); references to other works are permissible but must not form the main body of your answer.

**INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS**

- Ne pas ouvrir cette épreuve avant d'y être autorisé.
- Section A : Écrire un commentaire sur un passage. Votre commentaire doit traiter toutes les questions posées.
- Section B : Traiter un sujet de composition. Se référer principalement aux œuvres étudiées dans la troisième partie (Groupes d'œuvres) ; les références à d'autres œuvres sont permises mais ne doivent pas constituer l'essentiel de la réponse.

**INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS**

- No abra esta prueba hasta que se lo autoricen.
- Sección A: Escriba un comentario sobre uno de los fragmentos. Debe incluir en su comentario respuestas a todas las preguntas de orientación.
- Sección B: Elija un tema de redacción. Su respuesta debe centrarse principalmente en las obras estudiadas para la Parte 3 (Grupos de obras); se permiten referencias a otras obras siempre que no formen la parte principal de la respuesta.

第一部

次の 1 (a) の文章と (b) の詩のうち、どちらか一つを選んで解説しなさい。

(コメンタリーを書きなさい。)

1 (a)

宿場の時計が十時を打った。まんじゅう屋のかまどは湯気を立てて鳴りだした。

ザク、ザク、ザク。猫背の馱者はまぐさを切った。馬は猫背の横で、水を十分飲みためた。

馬は馬車の車体に結ばれた。農婦は真っ先に車体の中へ乗り込むと、街のほうを見続けた。

「乗っとくれやあ。」と猫背は言った。

五人の乗客は、傾く踏み段に気を付けて農婦のそばへ乗り始めた。

猫背の馱者は、まんじゅう屋のすのこの上で、綿のように膨らんでいるまんじゅうを腹掛けの中へ押し込むと、馱者台の上にその背を曲げた。らっぱが鳴った。むちが鳴った。

目の大きなかの一匹の蠅は馬の腰の余肉のにおいの中から飛び立った。そうして車体の屋根の上にとまり直ると、今さきに、ようやくくもの網からその生命を取り戻した体を休めて、馬車といっしょに揺れて行った。

馬車は炎天の下を走り通した。そうして並木を抜け、長く続いた小豆畑の横を通り、亜麻畑と桑畑の間を揺れつつ森の中へ割り込むと、緑色の森は、ようやくたまった馬の額の汗に映って逆さまに揺らめいた。

馬車の中では、田舎紳士の饒舌が、早くも人々を五年以来の知己にした。しかし、男の子は独り車体の柱を握って、その生き生きとした目で野の中を見続けた。

「お母、梨、梨。」

「ああ、梨、梨。」

馱者台ではむちが動き止まった。農婦は田舎紳士の帯の鎖に目を付けた。

「もう幾時ですかいな。十二時は過ぎましたかいな。街へ着くと正午過ぎになりますやろな。」

馱者台でらっぱが鳴らなくなった。そうして、腹掛けのまんじゅうを、今やことごとく胃の腑の中へ落とし込んでしまった馱者は、いっそう猫背を張らせて居眠りだした。その居眠りは、馬車の上から、かの目の大きい蠅が押し黙った数段の梨畑を眺め、真夏

の太陽の光を受けて真っ赤に映えた赤土の断崖を仰ぎ、突然に現れた激流を見下ろして、  
 そうして、馬車が高い崖路の高低でかたかたときしみだす音を聞いてまだ続いた。しか  
 し、乗客の中で、その馭者の居眠りを知っていた者は、わずかにただ蠅一匹であるらし  
 30 かった。蠅は車体の屋根の上から、馭者の垂れ下がった半白の頭に飛び移り、それから、  
 ぬれた馬の背中にとまって汗をなめた。

馬車は崖の頂上へさしかかった。馬は前方に現れた目隠しの中の路に従って柔順に曲  
 がり始めた。しかし、そのとき、彼は自分の胴と、車体の幅とを考慮することができな  
 35 かった。一つの車輪が路から外れた。突然、馬は車体に引かれて突き立った。瞬間、蠅は  
 飛び上がった。と、車体といっしょに崖の下へ墜落していく放埒な馬の腹が目付いた。  
 そうして、人馬の悲鳴が高く発せられると、河原の上では、押し重なった人と馬と板片  
 との塊が、沈黙したまま動かなかった。が、目の大きな蠅は、今や完全に休まったその  
 羽に力を込めてただ独り、悠々と青空の中を飛んで行った。

(横光利一「蠅」)

(注)

横光 利一 (一八九八―一九四七) 小説家。印象鮮烈な文体を創始し、川端康成  
 とともに新感覚派の運動を起こした。作品に『日輪』『機械』等がある。

まぐさ 馬や牛などの飼料にする干し草や藁。  
 余肉 余り肉。皮膚に余分に突き出ている肉。

- 1 この作品の中で、人間と蠅はどのように対比されていますか。
- 1 蠅の目を通した描写のあることで、どんな効果が生じていますか。
- 1 この作品の文章表現には、前項であげたものの他にどのような特徴がありますか。
- 1 この作品を通して、作者が表現しようとしていることはどんなことだと思っていますか。

1 (b)

月 夜

ぐりまの死

5 空と沼と。  
十日の月は二つ浮び。  
そのセロファン<sup>セロファン</sup>の水底の。  
もやもやの藻<sup>も</sup>も透<sup>も</sup>えてみえる。  
ふとそよ風<sup>そよ風</sup>がどこかで沸<sup>ふ</sup>けば。  
水<sup>みづ</sup>のもの月はちりめん<sup>ちりめん</sup>にゆれ。  
  
10 おぼばこ・すかんぼ。  
しだれ花火<sup>しだれ花火</sup>のまんだらげ。  
光りにぐしよ濡<sup>ぬ</sup>れの草をぐり。  
草を跳<sup>は</sup>び  
ゲツゲタかく鳴<sup>な</sup>きながら。  
強<sup>つよ</sup>いぐりまがやつてくる。  
  
15 蒲<sup>かき</sup>の根元でさつきから。  
いくぶんすねてたるりだはその時。  
なみうつ胸<sup>むね</sup>の楽器<sup>がくぎ</sup>をしづめ。  
そしらぬ風<sup>かぜ</sup>に息<sup>いき</sup>をのんだ。  
(「蛙」より)

20 ぐりまは子供<sup>こども</sup>に釣<sup>つ</sup>られてだきつけられて死  
んだ。  
取りのこされたるりだは。  
蓮<sup>はす</sup>の花をとって。  
ぐりまの口<sup>くち</sup>にさした。  
  
半日もそばにゐたので苦しくなって水にはい  
った。  
くわんらくの聲<sup>こゑ</sup>が腹<sup>はら</sup>にしびれる。  
25 泪<sup>なみだ</sup>が噴<sup>はな</sup>きあげのやうに喉<sup>のど</sup>にたぐる。  
  
蓮<sup>はす</sup>をくはへたまんま。  
蓮<sup>はす</sup>もぐりまも。  
カンカン夏の陽<sup>ひ</sup>にひからびていった。  
(「第百階級」より)

(草野心平)

(注) 草野心平 (一九〇三〜一九八八) 詩人。

- ・すかんぼ 草の名。スイバの別名。季語は春。
- ・まんだらげ チョウセンアサガオの別名。色が美しく芳香を放つ草。季語は夏。
- ・くわんらく 歡樂のこと。

- 1 「月夜」に用いられている比喩などの表現に注意して、第一、二聯<sup>な</sup>はどんな情景を描いているか読みとりなさい。
- 1 この第一、二聯の情景描写は、「月夜」「ぐりまの死」の二つの作品全体からみると、どんな効果をもたらしているか考えなさい。
- 1 「るりだ」「ぐりま」という名前からこの動物のどんな様子や特徴が読みとれますか。また、それらを暗示する表現も合わせて示しなさい。
- 1 ぐりまの死は、どのような「死」として描かれていますか。

## 第二部

授業で学習した部門(Part 3)から、(a)(b)の問題のうち一つを選んで、エッセイを書きなさい。エッセイを書くにあたっては、必ずPart 3で学習した文学作品二つに言及すること。なお、この二作品のほか、他の作品について述べてもよい。

### 2. 美の探求

- (a) あなたの読んだ作品において、美の世界を描くために、色彩やイメージなどがどのように扱われ、どのような効果をもたらしていますか。あなたの読みとったところを述べなさい。

あるいは

- (b) あなたの読んだ作品の中で、「美」を表現しているところをあげ、「美」とは何かについて、考えるところを述べなさい。

### 3. 社会と個人

- (a) あなたの読んだ作品の中で、描かれている人物像と社会とは常に対立するものとして描かれていますか。あなたの考えるところを述べなさい。

あるいは

- (b) 人間は独立独歩、みずから未来を開拓して行く生き物であるという考え方があります。あなたの読んだ作品から例をあげて、この考え方について論じなさい。

4. 自然と人生

- (a) 自然描写を通して、作者は人生に対するどのような思いを表現していますか。あなたの読んだ作品の中から例をあげて、考えるところを述べなさい。

あるいは

- (b) あなたの読んだ作品において、視覚や聴覚による描写を積極的に用いているものをあげ、それがどんな効果をもたらしているかについて、考えるところを述べなさい。

5. 家族

- (a) 主要人物である女性と男性の、家庭での役割はどうなっていますか。あなたの読んだ作品から例をあげて、考えるところを述べなさい。

あるいは

- (b) あなたの読んだ作品の中に描かれている家庭とその家族の生き方には、時代や環境によって変化したものがあるでしょうか。例をあげて、考えるところを述べなさい。

6. 愛と友情

- (a) 愛や友情をテーマとした作品は、人生についての教訓を含んだものになる傾向があるという人がいます。この意見についてあなたの考えるところを述べなさい。

あるいは

- (b) 愛情や友情の本質は自己愛にあるという人がいます。この意見について作品から例をあげて、あなたの意見を述べなさい。